

別記様式

		担当課	総合政策課
会議の名称	平成30年度 第3回鴻巣市まちづくり市民会議		
開催日	平成30年7月25日(水)		
開催時間	午前9時30分 開会 ・ 午前11時50分 閉会		
開催場所	鴻巣市役所 本庁舎3階 302・303会議室		
議長(委員長・会長)氏名	会長 一瀬 隆一		
出席者(委員)氏名(出席者数)	一瀬隆一(会長) 松澤敏夫(副会長) 青木照男 神下光勝 日比暁美 船塚和雄 大森由恵 島寄武彦 佐藤百合子 大山一郎(10名)		
欠席者(委員)氏名(欠席者数)	なし		
事務局職員職氏名	企画部副部長 齊藤隆志 総合政策課主任 古川優介 総合政策課主事 千葉佳代 学校支援課長 上岡 勝	総合政策課副参事 谷広明 総合政策課主任 新井洋平 観光戦略課長 小川哲夫	
傍聴者	なし		
次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 前回の議事及び本日の進行について 4 議事 (1) 対象施策及び重点基本事業の取組評価の報告 (2) 対象施策及び重点基本事業の課題・改善点の検証 Aグループ 3-1: 学校教育の充実 Bグループ 5-3: 観光の振興 5 その他 ・ 次回の審議会の予定等について 6 閉会		
会議の内容	(決定事項など) 「4 議事」について、Aグループ(会長進行)・Bグループ(副会長進行)に分かれ、それぞれ「第6次総合振興計画で定める施策概要」及び「成果向上に向けた取組提案シートにてまとめる施策・基本事業の取組評価」を事務局より説明後、審議。 審議の結果、課題・改善点として以下の内容を整理。これらの課題を次回の審議でさらに掘り下げ、課題解決のための取組提案をまとめることとなった。		

【Aグループ 「3-1：学校教育の充実」】

- 1) ・ 子育ての成功事例を知る機会が少ない。
- ・ 虐待問題については、虐待の事実より成功をイメージできる教育をなすべきである。
 - ・ 虐待をする親を生み出さないために、親になる前に命の大切さを伝えることが必要である。

《検討課題1》

●虐待問題の解決

《出された改善方策案》

- ・ 義務教育において命について考える授業を取り入れる
- ・ 学力以外の情報（個性や過去のいじめ問題等）を小学校から中学校へ連携する。

2) ・ 「研修や研究会での成果を教育活動に積極的に反映させていると回答した学校の割合」が48.2%→63.0%へ大きく向上しているのは、県の委嘱を受け研究事業を行った成果と考えられるが、この数字を維持・向上させるためには更なる研修制度を設けるべきである。

- ・ 教員の意欲が授業力の向上にもつながる。

《検討課題2》

●研究事業の効果的な活用

《出された改善方策案》

- ・ 研修で得た知識、経験を次のステップへ活かす仕組みをつくる。

3) ・ 地区により子どもが鴻巣の文化に触れる機会が限られている。

- ・ 親が地域と関わりを持つことで、子は鴻巣の文化を学ぶ機会を得る。地域と連携して文化を子どもたちに伝承し、将来的には地域の外へ「まち自慢」できる子を育てる。
- ・ 「自分たちが文化を作っている」意識を持たせる教育方法を検討するべきである。

《検討課題3》

●鴻巣の文化を子どもたちに伝承する

《出された改善方策案》

- ・ 鴻巣に現状ある資源を活用し、親子で体験できるイベントを企画する。
(例) コウノトリ、人形、自然 等
- ・ 文化に触れるきっかけを、わかりやすく提供する。
(例) 鴻巣版キッズニア（農業体験、文化体験、スポーツ体験等を一ヵ所で行う）
- ・ 働き方改革による余剰時間を、親が子どもと文化に触れる時間に充てる。

4) ・ 現状として、「心を育てる」授業を組む余裕を教員が持つことは困難である。

- ・ 授業に地域の方の知恵を取り入れ、教員も同時に学べる仕組みがあると良い。

《検討課題4》

●子どもの創造力を伸ばす

《出された改善方策案》

- ・ 夏休みに教室を活用したサマースクールを実施し、勉強だけでなく、地域の力を借り魅力ある授業に取り組む。

- 5)・ 昔と比べ、子ども同士の縦のつながりが希薄化している。上級生と下級生が関わりを持つことで、子ども同士で解決できていた問題が今では親や教員が介入することが多い。
- ・ 大人が思う以上に子どもは強く、自分の意思を持っていることを認識し、力を発揮できるよう育てていくことが重要である。

《検討課題5》

- 子どもとの関わり方の見直し

《出された改善方策案》

- ・ 子どもの意思を反映できる場所・聞ける場所を作る。
- ・ 教育を学校任せにせず、親が地域やPTA活動等に積極的に参加する。

施策全体に対する意見

中学校の部活動において、強い指導力のある先生に生徒が偏り、地域差が生まれている。外部指導者の協力・連携を強化し、他校で練習できる仕組み等の対策が必要ではないか。

【Bグループ 「4-4：観光の振興」】

《検討課題1》

●データ把握の不足・現状分析の不足

- ・ 本施策の目指す姿は、計画に示されるとおり、観光客等の増加により「地域経済が活性化」することが目的であるはずだが、それを測る目標が設定されていない。
- ・ 入れ込み客数を「市内外まとめて」「イベント中心」で、集計することは問題といえる。対策が測れないのではないか？
- ・ 観光庁が提供する「観光客入込客数統計基準」や「経済波及効果簡易測定」等は使えると考える。

《検討課題2》

●観光戦略計画の位置づけ、進捗管理

- ・ 戦略計画に明記される「観光戦略会議」が行われていないようだが、進捗管理に問題があるのでは。
- ・ 戦略計画に示す「住民参加」の枠組が見えない。
- ・ 戦略計画は既存資源の整理が中心となっており、新しい観光資源の掘り起こしも必要ではないか。
- ・ 戦略会議も、地元主体で行うと自己満足に陥りがちであり、外部の声を多数拾える会議になるよう構成すべきである。
- ・ 説明にあった「コスプレ」等も含め、効果があるなら積極的に計画に盛り込み、チャレンジするべきである。
- ・ 豊かな自然環境がある中で、「クライングガルデン」のような施設整備による、交流人口の獲得取組も、効果的といえる。

《検討課題3》

●イベント偏重型観光からの脱却

- ・ 「観光」という言葉が、「イベント」を想起させるとともに、市の取組も「イベント偏重」に陥っているのでは。祭り・花火は一過性であり、ここにいつまでも力を入れているだけでは、自治体間競争に勝ち抜けない。
- ・ 天候や社会要因に左右されやすい「イベント主体」の取組の先に続く、日常的な交流人口の獲得への取組が薄い。
- ・ 免許センター来訪客は、既存の交流人口数として非常に大きいのに、活用策がはかられていない。
- ・ ソフト全国大会、文化センター、看護協会の研修、こうのすシネマなど、目的に応じ鴻巣市に来訪する人も数多くいるが、その人達がちょっとでも鴻巣市を知る・他に立ち寄るきっかけを与えていないのではないか。
- ・ 人口減少社会の中で、しっかりしたターゲット層の設定と、外国人も含め新規ターゲット層の掘り起こしも行わないと、自治体間競争に勝ち抜けない。
- ・ 観光というより、プロモーション（どう見せる）が重要なのではないか
- ・ 内部で発想が生まれなければ、外部の声を求めるべきでは。
- ・ 新宿区的女子大生によるワークショップ、板橋区の板橋マニアなどは参考となる。
- ・ 推進に必要な人材は「若者」「バカ者」「よそ者」と良く言われるので、この辺りは考慮すべき。
- ・ 一番知名度のある「免許センター」を逆手に使い、「免許」をキーに横串PRをしてもいいのではないか。

- ・ 免許センター通りにおしゃれなカフェなどを整備するなど、取り込む工夫をセットで検討すべき。極端に言えば「バス路線」を廃止し、アーケード等も整備し、歩かせて立ち寄らせるなどを目標にしてもいいのでは。

【中山道関係】

- ・ 中山道は一つの売りであると考えるが、宿場会議・鷹狩り行列も一過性で終わってしまった。
- ・ 歴史の道景観モデル地区に指定されたが、次のステップが見えない。
- ・ 観光資源では大きく「人文的資源」「自然的資源」「生活文化的資源」の3つが資源要素となる中で、最近では「生活文化（体験・体感的要素）」でのニーズが高く、満足度も高い傾向となっている。さらさら舞や宿場町体験など「生活文化面」での掘り起しも進めるべき。

【花関係】

- ・ 花で街を売るなら一過性のイベントだけでは、意味がない。セリ体験ツアーもいい取組とは思いますが、イベント時だけでは効果が薄い。
- ・ 花の鑑賞は自己満足に近い面もあり、花だけでは売りになりにくい。
- ・ 市民や民間との協力体制による、ステップアップ策を考えていかなければならないのでは。
- ・ 富良野市のラベンダーから広がった展開は、観光地化の成功事例でもあり、一年中楽しめる仕掛けづくりが、今後は必要。
- ・ フラワーセンター等に、一年中花で彩られたおしゃれなレストランを作るなど、PR拠点が必要である。
- ・ 近年のインスタグラムのブームなどは、積極的に活用すべきであり、来訪者が撮りたいと思う場所を作ることが、まず一歩と考える。近年の鴻神社の盛り上がりはいい例ではないか。
- ・ オープンガーデンとは言わないまでも、外から見て「花の街だな」と感じられるような環境づくりが必要である。

《検討課題4》

●来街者の受入れ体制の不足

- ・ 観光来訪者の窓口拠点たる「ひなの里」は駅から遠く、また駐車場もわからない場所にある。
- ・ 民間へのプロモーション展開が弱い。
- ・ 駅前の目につく場所に、観光拠点は必要である。
- ・ フィルムコミッションは今後の充実化させる事業の一つとして、有効的であり、積極的な受け入れ体制の拡充を図るべきである。

《検討課題5》

●宣伝方法の拡充

- ・ 市民自体（特に壮年層）が、地域資源・イベントを知らない人も多い。貴重な発信者である市民へのアプローチが弱い。
一人一人が観光大使になってもらう位の積極的な取組が欲しい。
- ・ プレスリリースの効果はやはり絶大である。指標は件数で設定されているが、費用対効果で測るべき。
- ・ 観光大使が、有効的に活用されているとは言い難い。
- ・ 市民が魅力発信しやすいように、目につく箇所への積極的・インパクトのあるPRが出来るとよい。
- ・ フォトコンテストの実施など、SNSなどによる、通年の発信・拡散可能なイベントを実施すべき。

- ・ プレスリリースの価値換算による評価項目を設定すべきである。
- ・ 観光大使を活用したPRを充実化すべきである。

《検討課題6》

●広域連携の拡充

- ・ 鴻巣市だけの取組でも限界があることが、広域連携で相乗効果を生み出せる可能性がある。
- ・ 近年の川幅日本一の取組を吉見町と進めたような展開が、あまり見受けられない。
- ・ 観光分野は、地域連携が特に必要な施策である。
忍城～石田堤での行田市とのコラボ、中山道宿場街道のツアーなど、検討材料はあると思う。
- ・ 今年の皆野町とのポピーコラボはいい取組と評価できる。

《検討課題7》

●インバウンドへの取組不足

- ・ オリンピック、ラグビーW杯も控え、インバウンドの増加が見込まれるにも関わらず、取り込み策が見えてこない。
- ・ 観光協会のHPが多言語化に対応していない。
- ・ 広島のとある島では、外国人スタッフを雇用し、情報発信力の効果・受け入れ強化に努めた結果、効果が出ていると聞く。
市や観光協会でも、例えば中国人スタッフを雇用し、中国人に特化した取組などを検討するべきでは。

《施策全般に関する意見等》

- ・ 根幹は「もう一度来たいと思わせる仕掛けづくり」であり、それはイベント観光型だけでは中々成立しないものであり、そのための取組を充実化すべきである。
- ・ 本施策のみならず、総合振興計画全体として定住人口を中心に整理するだけでなく、中間流入人口・昼夜間人口・一時滞留人口といった交流人口構成もしっかりと分析・整理したうえで、施策構成・目標設定・推進内容を検討するべきである。

配布資料

- ・ 平成30年度第2回鴻巣市まちづくり市民会議 次第
- ・ 取組提案シート（審議①整理版）